

しろあと

第146号

発行：館林市立第二中学校PTA
編集：第二中学校広報委員会
令和5年7月24日発行

新会長 就任の挨拶

就任のご挨拶

新PTA会長

今年度、PTA会長を務めさせて頂くこととなりました島村和則と申します。
伝統ある館林市立第二中学校のPTA会長に就くことは、大変重責ではございますが、前手島会長をはじめ、PTA役員・教職員・保護者の皆様がこれまで築き上げたPTA活動の功績に感謝するとともに、コロナ規制緩和の状況を踏まえ、子供たちの健やかな学校生活のために皆様のお力添えを頂きながら務めて参りたいと思います。
皆様の「ご意見をお気軽に」お寄せください。
一年間、宜しくお願い申し上げます。

前会長 退任の挨拶

退任のご挨拶

前PTA会長

令和四年度、PTA会長を務めました手島です。なんと任期を終えることができ、安堵しております。
一年を振り返ってみて、子供たちの成長を身近に実感することができました。また、私自身も皆様と一緒に役員の仕事をする中で、様々なことを学ばせていただきました。
今年度は様々なことがコロナ前に戻っていくのほどと期待しております。PTA活動及び教育活動、学校行事も連動してコロナ前に近づいていけることを願っています。
一年間ありがとうございました。

校長先生から挨拶



人とのつながりを大切に

校長

人は、人と共に生き、人と共に成長します。

学級や部活動の仲間、身近な大人や地域の方々など、人とかかわる中で成長していきます。特に、中学校での短い三年間は、周りの人たちと心をつなげて、自分の力を発揮したり、困難を乗り越えたりすることで、大人の心へと近づいていく、貴重な時期ではないかと思えます。

保護者や地域の皆様、今年度は学校を地域に開いて、人とのつながりを大切にしていきたいと思えます。二中へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

はやいもので1学期も終盤となりました。

本校では、校内ジュニアオリンピックや修学旅行など、1学期のビッグイベントが行われました。2年生は、先輩らしくなり、1年生も徐々に中学生らしくなり、成長を感じる毎日です。

PTAでは、手島会長から島村新会長になり、新たなメンバーで新体制をスタートしました。また、教師陣も四月の異動があり、新しい体制で活動しています。

本号では、そんな新しい二中をご紹介します。

先生の紹介

- ① 担当教科または役職
旅行に行くならここ！
- ②

第一学年

- ① 数学担当
 - ② 草津
- 「夢はカナダ」

- ① 社会担当
 - ② 月！
- 「重力6分の1の月面を走ってみたい！」

- ① 家庭 社会担当
 - ② ヨーロッパ
- 「うまいワインが飲みたい！」

- ① 英語担当
 - ② ベネチア
- 「水上バスに乗って世界遺産の街並みを見てみたい」

- ① 美術担当
 - ② 京都
- 「王道に京都市内を歩きたいですね。聖地巡礼したいです」

- ① 国語担当
 - ② 京都
- 「古刹の仏像と庭をただ眺めるのが好き。多いときは年三回行った年もあります」



第二学年

- ① 保健体育担当
 - ② 高知県
- 「カツオ最高」

- ① 理科担当
 - ② シンガポール
- 「いろいろな文化が交じって化学変化した街でした。」

- ① 英語担当
 - ② スペイン！
- 「トマト祭りに参加したい！」

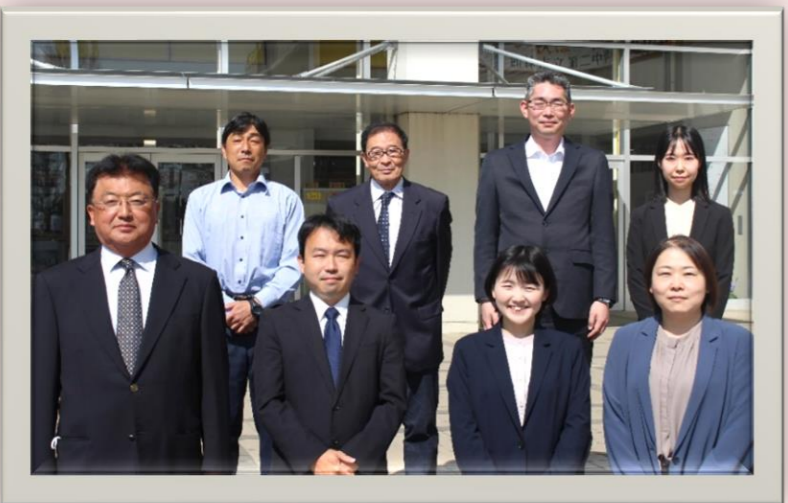
- ① 国語担当
 - ② ウユニ塩湖
- 「ウユニ塩湖の絶景を観たい！写真を撮りたい！」

- ① 特別支援学級担当
 - ② 横須賀
- 「たたら浜という海水浴場 お魚がいっぱいいます」

- ① 技術担当
 - ② 京都
- 「引率で行ったことがないので、プライベートでぜひ行きたいです」

- ① 特別支援担当
 - ② 沖縄
- 「沖縄で海沿いをドライブしたいです」

- ① 介助員
 - ② 奈良
- 「電車の車窓から見る、薬師寺の塔の風景が最高です」



第三学年

- ① 音楽担当
 - ② オーストリア
- 「音楽の都で一流の音楽をいっぱい鑑賞したい」

- ① 数学担当
- ② ハワイでワイワイしたい。ハハハ！ワイワイ。

- ① 社会担当
 - ② ハワイ
- 「海沿いを走ってみたい」

- ① 保健体育担当
 - ② 沖縄
- 「でもまた日焼けしちゃうかなあ」

- ① 英語担当
- ② きれいな沖縄の海

- ① 理科担当
 - ② 尾久島
- 「珍しい植物を見ながら山登りたいです」



担任外

- ① 校長
 - ② モン・サンミシエル
- 「周りが海に囲まれ、島全体がお城のように見える修道院です。特に、朝焼けや夕焼けに染まったモン・サンミシエルは、幻想的に心に残る風景です」

- ① 教頭
 - ② 北海道函館
- 「函館山からの夜景、五稜郭、カニ、イカなど海鮮食べ放題、湯の川温泉、函館ラーメン、ラッキーピエロ…見所、食べ所満載」

- ① 事務職員
 - ② ハワイ
- 「あの頃に戻って…」

- ① 校務員
 - ② 夏の北海道
- 「爽やかな夏を満喫したい」

- ① 養護教諭
 - ② エジプト
- 「王家の谷など見たいところがたくさんあります」

- ① こころの教室 相談員
- ② 昔行った、青の洞窟の感動をもう一度味わいたいです。

- ① 学校司書
 - ② 島根県！
- 「出雲大社に行きたいです！」

- ① 用務員
 - ② 金沢
- 「酒と肴と日本酒の景色を楽しみたいです」

- ① 用務員
 - ② 日帰りなら長野県ビーナスライン／遠出なら阿蘇山
- 「二カ所とも、雄大な自然を感じることが出来ます。心・技・体のリフレッシュに最適です。その後、長野ならソバや白桃、阿蘇なら赤牛、熊本ラーメンと味覚も楽しめます。心のアルバム創りに行ってください」

- ① ALT
 - ② ヨーロッパ！
- 「ヨーロッパには素敵な場所がいっぱいあるから！」

- ① スクールカウンセラー
 - ② アナハイム
- 「生で大谷選手を見たい」

- ① コミュニティスクールディレクター
 - ② 宇宙
- 「地球を眺めて、葉っぱのフレディの気持ちになりたい」



中学校生活について

学年主任

大きな期待とちよつとの不安が入り混じった気持ちで中学校に入学したと思います。生徒たちは、これからの三年間で身体も心も大きく成長します。その中で、時に悩んだり、壁にぶつかったりすることもありますが、それもたくましく成長していくための試練であり、階段でもあると思います。大切なのは、心のうちにある『よりよくやりたい』という気持ちと素直に向き合うことだと思います。

職員一同は、生徒がまっすぐに成長するための支援を精一杯にしていきたいと考えています。また、そのためには保護者の方々と互いによく理解し、協力し合うことがとても大切であると思っています。

「優勝したJ.O」

二年生

僕は、二年連続高柳組で、J.O優勝という記録を残すことができました。これができたのも、みんなのおかげでした。全員リレーで自分は負けてしまい、すごく悔しかったです。ですが、クラスのみんなが「代表リレーのメンバーは、よくやっただ」みんな速かったよ」といつてくれました。僕は、すごく嬉しかったです。それでも、自分がじゃんけんに勝っていればとか、自分のせいで一組が負けたらどうしようというリレーが終わったあとに思いました。

結果が発表され、「一組優勝」と言われた瞬間、僕はすごく嬉しかったです。クラスの皆がいなければ達成できなかったことです。僕は胸の中で、クラスのみんなありがとうと思いを

中学生になって

一年生

私は、二中学生の一員ということとを頭に入れ生活していきたいです。そのために必要なことは三つあると思います。

一つ目は「遅刻をせず、時間を守る」ことです。小学生のときは班があり、集合時間などがありませんが、中学校では自転車での自由な時間に出発します。私は時間を守ることが苦手なので、遅刻をせず時間を守って、友達と楽しく登下校していきたいです。

二つ目は、「何事にもチャレンジしてみる」ことです。これから朝ランや部活動など、チャレンジすることや、学級委員、生徒会など難しいことがたくさんあると思います。そんなとき、少しでもやりたいと思えば、少しチャレンジすることが大切だと思います。

三つ目は、「友達をたくさん作り、笑顔で過ごす」ことです。私は、少人数の学校で六年間、クラス替えがなく、みんな友達という感じで過ごしてきました。しかし、中学に入り、一学年、九十人ととても多い人数になりました。同じクラスで同じ小学校の子は二十九人のうち、五人しかいません。せっかく同じクラスになった違う小学校の子にも笑顔で話しかけ、一年間笑って過ごしていきたいです。

校内ジュニアオリムピック

「勇者たちの記録」

二年一組担任

J.Oに向けて、士気を高めた者たちがいた。仲間たちの力を冷静に分析し、最高の作戦を立てた者たちがいた。仲間たちを鼓舞する、色鮮やかな旗を完成させた者たちがいた。希望通りでなくとも、最後まで完走し、クラスに貢献した者たちがいた。戦いに敗れてうなだれる仲間を、気丈に励ます者たちがいた。声の限り、懸命に応援する者たちがいた。己にかかるプレッシャーに立ち向かい、全力を出しつくした者たちがいた。優勝に向けて望みを捨てず、計算し続ける者たちがいた。一度負けても諦めず、望みをつないだ者たちがいた。呼吸を合わせ、心をひとつに百二十九回跳んで前人未達の記録を打ち立てた者たちがいた。

教室の棚、絆を育んだ二十四人十一人の記憶が刻まれた黄金の聖杯が、静かに光を湛えている。

高原学校



修学旅行

「修学旅行の思い出」

三年生

東大寺で鹿せんべいを買った瞬間、たくさん鹿が寄ってきて制服を汚されて大変でしたが、可愛すぎたのもう一回鹿せんべいを買いました。家に持ち帰りました。家に可愛かったです。早く五時から走った朝ランでは、最後の坂ダッシュは結構疲れましたが、そのことも忘れるくらい、今までで一番気持ちよく走ることができました。インターネットから離れた、みんなと過ごす古都での三日間は楽しすぎてあつという間でした。最高の思い出です。

三年三組担任

修学旅行という中学校で最大の行事を終えた今、私の心に残るものはなんだろう？子ども達の笑顔だろうか。久々に触れた京の都の風情だろうか。非日常を共に楽しめた喜びだろうか。三日間はあつという間という言葉がぴつたりなほど瞬時に過ぎていき、色濃いい思い出になるはずが、風が過ぎ去っただけのよな感覚だ。本当に、旅をしてきたのだからか？と疑いたくなるほど、一瞬で終わってしまった。楽しい時間は過ぎ去るのが早いとよく言うが、まさにその通りだった。

しかし、脳裏に焼き付く景色はいくつもある。奈良公園でクラスの子たちの笑顔の背景に広がる青空、京都のラーメン屋で友達と乾杯したコーラ、ホテルの談話室で「先生話そう！」と駆け寄ってくる姿、帰りの新幹線：ああ、確かに私は修学旅行に行ってきたのだ。この学年とは幸運にも三年間を共にしている。それだけでも有り難く、嬉しいことだが、その上こんなにも幸せな三日間を与えてもらった。

私の人生においてこの先何度、奈良京都に足を踏み入れるかは分からない。でも私はきっとその度に、この三日間を思い出さるだろう。この最高のメンバーとともに旅した記憶は、一瞬で一生の財産だ。

校内ジュニアオリムピック



修学旅行

